

令和5年度 学校評価報告書

島根県立益田高等学校

【スクールミッション】

地域や大学、研究機関との連携による先端的・探究的な学びや、進路希望の実現に向けて主体的に科目選択ができる単位制による学びを通して、地域や国の未来を切り拓くことができる人材を育成する

【教育目標】 主体的に物事に取り組み、様々な他者とのつながりを通して自らを高め、未来を切り拓くことのできる生徒を育てる。

【教育方針】 (1) 生徒の進路目標を早期に確立させ、その実現を支援する。(進路保障)
(2) 基礎基本に基づいた確かな学力を育成する。(学力保障)
(3) 豊かな人間性を養い、これからの社会をたくましく生き抜く力を育成する。(資質保障)

【合い言葉】 「伸びる 伸ばす」

【重点目標】

- (1) 進路保障 ① 未来を切り拓く生徒を育てるため、自己の将来の在り方・生き方を考える機会を通じながら、早期に進路目標を設定し、進路実現に向かう意欲と態度を育てる。
② 進路決定に必要な情報の提供や面談等により、生徒の進路実現に向けた意欲を喚起し、日々努力する習慣を身に付けることにより、目標実現に向けて確かな学力の獲得を図る。
- (2) 学力保障 ① わかる授業で、学びの支えを築く(知識・技能)、深め広げ豊かにする(思考力・判断力・表現力等)、人生や社会に活かす(学びに向かう力・人間性等)要素を育成する。
② スーパーサイエンスハイスクール事業への取組を通じ、社会教育機関と連携しながら、課題解決を探究・研究し、科学リテラシーと創造性の素地を育てる。
- (3) 資質保障 ① 「凡事徹底」、「日々改善」の基本的生活習慣の確立を図るとともに、教育相談等を充実させ、生徒の心身ともに健康な生活を支援する。
② 自他の権利を理解し、権利を行使する責任を自覚して互いに共感し共生する心と力を育てる。
③ 学習、部活動、生徒会活動、学校行事等に主体的、積極的に取り組むことにより、8つの「益高生に身につけさせたい資質・能力」を育成する。

※益高生に身につけさせたい8つの資質・能力=①自主性、主体性 ②思考力、創造力 ③課題発見・解決力 ④社会性、協働性 ⑤粘り強さ、運しき ⑥表現力、発信力 ⑦マネジメント力 ⑧自己肯定力

重点目標	分掌別目標(具体的な取り組み)	成果指標	具体的な取り組みと達成状況・自己評価	学校関係者評価・意見	次年度へ向けての方針・改善策
進路保障 (進路指導に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部と教科担当との連携を図り、授業第一の姿勢と家庭学習の定着を図る ・生徒面談を密に行い、具体的な進路目標の設定を支援する ・ホームルーム活動における進路学習を充実させる ・進路学年集会や進路講演会を効果的に実施する ・進路希望調査や進路検討会を踏まえて適切な進路情報の提供を行う ・模試を効果的に実施し、模試結果の学力分析を情報提供する ・多くの本との出会いを提供し、将来の在り方や生き方を考えさせる 	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	<ul style="list-style-type: none"> ・生活時間調査を軸に生徒の学習に取り組む状況の把握に努め、必要に応じて教科担当の面談を取り入れた。・朝学習の呼びかけ、定期試験前の放課後学習を実施した学年もある。 ・担任との個別面談の回数を可能な限り多く設定するとともに、学年ごとに行われる進路検討会で協議した内容を伝えながら個々に応じた支援を行った。 ・学年別に進路学習のホームルームを企画したが、進路指導部と学年部との連携が足りず不十分な点が見られた。 ・例年と同程度の回数の生徒対象、保護者対象の集会、講演会をそれぞれ実施したが、進路希望と入試方法が多様化する中、そのすべてに対応するのは困難がある。 ・大量に届く進路情報は適切に整理、取捨選択して生徒の進路希望に合わせて情報提供した。また、年複数回の進路検討会の内容は担任との個別面談の資料に役立てることができた。 ・模試の結果分析を緻密に行い、各教科に情報提供を行い指導改善の資料とした。 ・定期的な図書館だよりの発行、館内展示の充実にも努めた。また出張図書館コーナーを校内各所に設置し貸し出しもできる体制を整えた。 	・学校が生徒にとって相談しやすい環境になりつつあると評価できる。引き続き、個別面談は丁寧に継続してもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・年々生徒の学力幅が広がっていることは間違いなく、この傾向は今後も続くものと思われる。学習に困難を抱えている生徒や家庭で学習する環境が整わない生徒が増加傾向にある。生徒それぞれが自分に合った計画の立て方や学習方法などを身に付け、主体的に学習に取り組んで行けるよう引き続き支援したい。担任、学年部、教科担当だけでなく、必要に応じてみらいデザインルーム、特別支援教育コーディネーターとも連携を図りながら進めていきたい。 ・次年度は3年生が受験する大学入試において新課程対応初年度入試となり、より精密な情報収集と適切な情報提供が進路目標実現に向けて重要となる。アンテナをしっかりと張って、必要な情報提供と進路支援を行いたい。同時にどのような変化にも対応できるよう、日々の学力定着に向けて今一度進路指導体制全体の見直しを図りたい。 ・模試の実施日程を生徒の休日の学習への取り組みへ配慮し、いくつか日程変更を行う。 ・図書館だより、出張図書館など次年度も継続し、本を知る、触れる機会を増やし、7割の生徒が図書館に来館しないという実態を改善したい
学力保障 (学習指導に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活時間調査を実施し、生活習慣・学習習慣の確立とマネジメント能力の向上を図る ・授業改善を意識し、指導力向上の施策を行い、教科指導の充実を図る ・各学年の補習を計画的、効果的に実施し、学力強化を図る ・図書館の学習センターの機能を整え、学ぶ場としての利用を推進する ・探究的な学びの基盤となる論理的思考力、プレゼンスキル、データ活用力を身につけさせる ・課題探究、課題研究などを通して他者と協働する力を身につけさせる ・SSHの取り組みを通して、科学への興味関心、地域貢献への意識を高めさせる 	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	<ul style="list-style-type: none"> ・「キセキ」(学習時間記録冊子)に学習時間、生活時間を記入する形で、生活時間調査を実施した。今年度は年度途中でデータ収集分析に不備があり、適切な情報還元ができなかった。 ・「聴くスキル(聴く力)」「ねらいを明確にした授業」というテーマを設定し、相互の授業見学(授業興隆週間)を行った。・教員の指導力向上を目的にした他県の高校への視察派遣を行った。 ・年度当初の計画通り進めることができた。また、次年度以降の在り方を時間をかけて協議検討した。 ・受験や学習に役立つ資料を集めた「受験・学習応援コーナー」の新たな設置、新聞データベースの導入など生徒が最新の情報を入手できる環境を整えた。 ・SSH事業として計画した各学年別の取り組みもそれぞれ概ね計画通りに進めることができおり、生徒の資質能力向上に一定の成果があったと自己分析している。特に2年生における「データ分析力」「洞察力」の評価点の向上、3年生のSSH事業全般に対する肯定評価点の高さは良い結果であった。 一方、課題をあげるとすれば、1年生におけるファシリテーション力の低評価、課題探究の観点別評価のあり方などがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣が身につけていない生徒については、これまでの学習への理解度や生活環境などその背景をしっかりと見ていただきたい。 ・生徒のコミュニケーション能力の育成はとても重要である。ただ、学校内のみでは難しい部分もあると思うので、もっと地域社会を活用してそのつながりの中で育成を図ってもらいたい。 ・コミュニケーション能力の育成はどの発達段階でも重要であると思う。コロナ禍における活動制限も少なからず影響してであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「キセキ」(学習時間記録冊子)の活用方法については校内でも意見が分かれているが、次年度は継続する。一方、生徒のマネジメント力の育成につながる形への変更も検討したい。 ・授業興隆週間は次年度もテーマを設定し行いたい。 ・他校視察(先達校視察)は予算の範囲内で実施を継続したい。 ・土曜補習については、学力層の拡大に細やかに対応できるよう、実施日の変更、全員受講と希望者のみの別、成績不振者対策、自習開放等を盛り込んだ内容を実施する方向で計画している。
資質保障 (生徒支援に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣を確立し、規則遵守の大切さを理解し行動できる資質の育成を図る ・支援が必要な生徒に対して、担任、関係教員、関係機関と連携して支援に努める ・ホームルーム活動を通して望ましい人間関係を構築できる力を育てる ・集団での自分の役割と責任を自覚し、互いの個性を尊重しながら行動できる力を養う ・生徒会の活性化をはかり、生徒の主体的、自主的な活動につなげる ・生徒が主体的に取り組める学校行事の企画・運営に努める ・部活動の充実を図り、計画的に取り組む力と自己管理能力を育成する 	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立へ向けた指導に不十分な点があった。特に身だしなみの大切さについての指導が計画的に進められなかった。 ・生徒の健康状態・欠席状況の把握に努め、不登校傾向の生徒や支援を必要とする生徒への対応を行うとともに全体には健康実態や健康情報の発信を行った。 ・「未来つくるプロジェクト」という新しい取り組みの中で、外部講師の協力も得ながら、より良い人間関係づくりに関する学びを生徒に提供した。 ・安全安心アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めた。いじめ事業に対して組織的に対応している。 ・生徒会執行部を中心とした学園祭企画運営は生徒の主体的な姿勢が多く見られた。また、(七夕飾りなど)保護者の協力で行った取り組みは生徒にとっては喜びである。 ・各行事で生徒の活躍を見ることができた。一方、並行して授業時間の確保の観点で行事の精選、見直しを検討した。 ・部に所属している生徒は学習との両立を目指して努力している。一方、部活動加入率の低下がみられた年であった。 	<ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育システム推進センター校(みらいデザインルーム)の設置をきっかけに学校全体の支援体制がどのように変化したか、興味がある。日常の授業における生徒に対する支援体制を構築できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立、SNSの啓発など保護者と共通認識をもって取り組みを継続したい。 ・保健室への来室者増加(特に1・2年生)は次年度以降も予想される。今一つ踏ん張れない生徒がいるのは確かである。校内の各担当の連携による対応を継続するとともに、保護者への理解協力も求めたい。 ・次年度も引き続き「未来つくるプロジェクト」を継続し、生徒の安心安全な学校生活の確保につなげたい。 ・引き続き丁寧な個別面談や生徒観察を通して課題を抱えた生徒への組織的な対応を進めていくとともに、関係機関との協力体制も維持したい。 ・炎天下での実施を避けるため体育祭の開催時期の変更を予定している。準備期間など生徒への影響が大きいため配慮が必要である。 ・入学前の健康診断、オープンハイスクール、遠足、体育祭など例年と異なる日程内容で予定を組んでおり、丁寧な計画立案を心がけたい。 ・新入生に対する部活動勧誘、部員確保をしっかり取り組んでいきたい。
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、重点目標をすべての教育活動を通して達成する ・事業予算の適切な執行と校内の施設設備の維持管理を進める ・保護者、地域、関係機関と双方向的、協働的な関係性を構築する 	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールミッション、合い言葉「伸びる 伸ばす」のもと、重点目標達成に向け、授業、学校行事、部活動、SSH事業、進路行事など全教育活動を通して、全教職員が努力した。 ・限られた予算を適切に執行できるよう努めるとともに、各分掌と連絡を密にしてバランスの取れた予算執行を心掛けた。また必要に応じて県教委にも要請を行った。 ・コロナ5類変更により、生徒の教育活動のようすを保護者や地域の方、行政、大学など関係機関の方に直接見ていただける場面がかなり戻ってきたと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学校に対する評価の分析を丁寧に行って結果につなげてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R6年度入学者選抜では理数科推薦選抜を実施したところである。さらにR7年度入学者選抜では普通科、理数科ともに特色選抜(総合選抜)を行うことが決定しており、益田高校のどのような姿を中学生やその保護者、地域へ向けて発信するのが重要な年度になる。 ・認定枠におけるSSH事業の進め方や老朽化した施設設備等、運営経費の面で苦しい状況にあることに変わりなく、引き続き限られた予算の中で学校経営が求められる。 ・上記課題に注力し、益田市未来の担い手コンソーシアム、PTA、卒業生会、地域、大学等関係機関と連携をはかりつつ、学校運営に取り組むたい。